

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年4月10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	第4690100591号
法人名	医療法人 愛人会
事業所名	グループホーム桜並木
所在地	鹿児島市紫原4丁目30番22号 (電話) 099-802-4312
自己評価作成日	平成30年2月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	平成30年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

慈愛の精神 すべての人を愛する人間愛のもとに、すべての人の意思を受容し、すべての人の人格及び尊厳をお守り致します。

自立の支援 その人の出来ない事だけを支援し、自立性を高めて頂きます。

社会的役割 私たち職員は、常に入居者と同じ目線に立ち、地域の社会資源となりよう努力します。入居者、家族、地域、ボランティアの方々が入りやすい雰囲気であり、共同生活空間が家庭的で落ち着いた物になるように配慮していきます。所在地が閑静な住宅街に位置しており、公園やスーパー等も隣接しており、買い物外出や散歩等を楽しむ機会を出来るだけ多く持つように支援しています。同法人の病院とは24時間体制で連携が取れるようになっており、緊急時の対応や、医療的な指示や助言を受ける事が速やかに行える体制が出来ています。協力医療機関の主治医による往診が月2回、看護師長の健康チェックが週3回行なわれており、定期的な健康チェックや医療行為等を行なっている。また、必要に応じて訪問歯科診療や訪問マッサージ等も受けられる体制が出来ている。ヒヤリハットや事故報告書の提出を徹底しており、統計を取り事故の内容や時間帯等を分析しており事故の再発予防、事故防止やリスクマネジメントに力を入れている。季節毎の行事や園外活動、レクリエーションにも力を入れており、入居者様への楽しみの提供とともに脳活性化による認知症悪化予防を目標にしている。また、ご家族にも行事の参加を呼び掛け、職員共々行事やレクリエーションを楽しめるよう努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- 当ホームは、鹿児島市街地の高台にあり周辺には、公園や銀行、薬局等の商業施設があり、バス停にも近いなど交通の利便性も良い幹線道路沿いにある。
- 両ユニットの平均の要介護度は、3.2と高く車いすや手引きにて移動される方や転倒のリスクの高い方などがおられるため職員は、常日頃から住環境を整備しながら安全な生活の実現に向けて、気配りや目配りしリスクマネジメントにも柔軟に取り組んでいる。100歳を超える利用者が数名おられるが、本人らしく穏やかに暮らしていただけるよう最善のケアに取り組んでいる。
- 理念は、理事長の思いが込められたものでパンフレットに掲載し、共有スペースに掲示して職員会議等で全員で唱和し、理念に沿ったケアの実践に取り組み、職員全員に浸透して理念を共有できるよう努めている。
- 母体の医療機関とは24時間オンコール体制が図られ、他医療機関との医療連携も取られている。隔週の訪問診療、週3回は訪問看護との連携があり、緊急時の早めの対応や重度化した場合等は、「医療連携体制加算に係る手順」を提示し早い段階から利用者や家族、主治医を始めとする関係機関にて十分に話し合いホームでできる最大のケアに取り組み、納得のいく最期を迎えられるよう支援している。看取りの実績はないが、超高齢な利用者や重度化があるため外出などは個別化され家族に協力をいただいたり、職員と一緒に地域の行事などに参加される方もおられるなど利用者の楽しみを援助している。

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

・ 理念に基づく運営

1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所内の見やすい位置に掲示しており、各職員が理念に基づいたケアが出来るように努めている。	理念は、代表者の思いが込められたものであり、職員一人ひとりが常に日々意識しケアに取り組み、理念に沿ったケアの実現に向け実践しているが、振り返りの機会が少ない。	
2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に参加しており、紫原中央保育園とも交流があり、毎年敬老会の慰問に来て頂いたり、保育園の運動会に招待してもらっている。	町内会の回覧版を通じて情報収集し、地域の夏祭りや清掃活動、保育園の運動会への参加、また、ホームの敬老会に参加を呼びかけるなど利用者が地域とつながり相互に交流できるように取り組んでいる。	
	○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	町内会等を通じて行事や防災訓練への参加を呼び掛けている。		
3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様やご家族にも参加して頂き、意見を出してもらい、サービスの質の向上につなげている。また、その進行状況や結果を、次の運営推進会議の際ご家族に報告している。	管理者は、早めに日程を連絡するなどしてより多くの家族が毎月交代で会議に参加していただけるよう工夫している。今後は、花見会や敬老会と同時開催をするなど検討したいと考えている。	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>運営推進会議等へ参加して頂くよう依頼し、事業所の現状報告を行い意見交換を行なう機会を作っている。</p>	<p>市担当者とは、会議を通じて意見交換や助言、アドバイスをいただいたり、電話、メールなどを通じて連絡、相談をするなど日常的に協力関係を築くよう努めている。</p>	
5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止委員会を設置し、勉強会などで理解を深め、身体拘束ゼロを目指したケアを実施するように努めている。</p>	<p>職員は、定期的に身体拘束の研修会を実施し知識や技術の研鑽を重ねている。また、新人職員には、接遇マナー研修を実施し、身体拘束の弊害等についての意識向上を徹底している。玄関や2階出入口などチャイムを設置しているが、2階はエレベーターや階段などあるため安全面に配慮した構造になっている。</p>	
	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>職員会議や勉強会を実施し、正しい知識の習得し、実践している。言葉使いや接し方についての指導も行っている。</p>		
	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>成年後見制度を利用されている方がいらっしゃるため、職員の認識を高めるため、勉強会等を行い理解できるように努めている。</p>		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に契約書、重要事項の説明を行っている。 入居後も、質問等には随時対応しており、内容の変更があった場合はその都度説明を行っている。		
6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月ご家族宛に手紙を書いております、入居者の様子や連絡事項をお知らせしており、ご意見や要望がないかの確認を行っている。また、家族会を開催し意見交換を実施、アンケート等も行っている。	年1回、家族向けアンケート調査を実施し、職員全員で話し合い、家族会で報告するなどしてサービスの質の向上に取り組んでいる。また、毎月、「桜並木新聞」を家族に送付する際、担当職員よりご家族宛てにコメントを記して利用者の暮らしぶりを伝え家族からの意見、要望を聞き取りケアに活かすよう努めている。	
7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、勉強会、ケアカンファレンスを定期的で開催し、各職員の意見を聞く機会を設けている。また、必要に応じて個別面談を行っている。	管理者は、必要に応じて職員との個人面談を実施したり、会議などで意見交換するなどして、職員の意見、提案などを聞く機会を設けている。主任を中心にリーダーシップが図られるなど働きやすい職場環境を検討し、離職も少ない。	
	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格の取得に向けた支援を行っている。取得後は給与面もアップする。全職員に（パート含む）賞与がある。残業手当も出しており、職員の意欲を向上させている。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月勉強会、職員会議、ケアカンファレンスを行い、知識、技術の向上を目指した取り組みを行っている。</p>		
	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他事業所の行事や勉強会に参加し、交流の機会を持つようにしている。また、情報提供や意見交換なども必用に応じて行っている。</p>		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

I.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に面談を行い、生活歴や生活の状態を把握する。 また、必要に応じて担当ケアマネやかかりつけ病院等からも情報収集をしている。		
○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談時に、家族からの意向や要望を聞くようにしている。		
○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスも含めた支援の方法を家族と一緒に話し合いながらケアの方針を検討している。		
○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いを理解し、今までの生活歴を考慮しながら、その人が個性を發揮し楽しく生活できるようにしている。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>毎月、手紙に写真を添えて近況報告をしており、行事等への参加も呼びかけている。家族が気軽に立ち寄れて、なんでも言えるような雰囲気作りをしている。</p>		
8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>近くのスーパーや行きつけの美容室等、地域の馴染みの場所に行く機会が持てるよう支援している。</p>	<p>家族と理美容院に行かれる方や盆・正月などに自宅に帰られる方、年1回程度外泊される方もおられる。また、電話の取次ぎを支援したり、面会時は居室でゆっくり歓談できるよう配慮している。</p>	
	<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>毎日のお茶や食事、レクリエーションを共にし、入居者同士が楽しく交流でき円滑な人間関係が築けるよう支援している。</p>		
	<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>長期入院等により退去されても、お見舞いや面会に行っている。また、家族からの相談も受け付けている。</p>		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

I. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の関わりの中で入居者の意向を確認するようにしている。意思疎通の難しい人にも、表情等から思いをくみ取るよう努めている。	職員は、本人の表情、うなづきなどで思いや意向を把握し、家族と情報を共有しながら、本人本位にケアできるようにカンファレンスなどで話し合っている。	
	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当ケアマネや家族、かかりつけ病院、本人から話を聞き、情報収集を行っている。		
	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の体調の変化や生活リズムを把握する。その人の有する能力を吟味しながら、出来る範囲で共同作業を一緒に行ってもらう。		
10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	朝礼やカンファレンス時に全員で意見交換を行っている。また、入居者や家族からも話を聞くようにしている。	家族や職員の情報を聞き取りアセスメントし、カンファレンスなどで話し合い、利用者や家族の意向を踏まえた介護計画を作成している。また、短期目標の期間ごとに評価し、必要に応じて見直しするなど柔軟に取り組んでいる。	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にファイルを作成し、日々の生活の様子や本人の言葉等を記録している。いつでもすべての職員が閲覧できるようにしている。</p>		
	<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>家族や本人の希望や状態をよく聞き、必要な支援が提供できるように努めている。</p>		
	<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>運営推進会議に参加して頂き、民生委員等と話し合いをする機会を作っている。また、訪問歯科診療や訪問カット等が利用できる体制が出来ている。</p>		
11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>以前からのかかりつけ病院の受診を希望された場合は、個別に対応している。特に希望のない場合は協力医療機関での受診、往診を行なっている。</p>	<p>母体の医療機関や訪問看護師による健康管理などオンコール体制などがあり医療連携が図られている。また、訪問歯科診療、薬剤師との協力関係も築かれ、受診時は家族に協力をもらったり、必要に応じて職員が同行するなど適切な医療が受けられるよう支援している。</p>	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>協力医療機関から週3回、看護師長による健康チェックを行っている。また、必要に応じて看護師長や主治医に指示や助言をもらっている。</p>		
	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院中は病院や家族と連絡を取りながら、現状を把握できるようにしている。また、面会やお見舞いに行く機会も持ち、退院後も安心して戻ってこれるよう配慮している。</p>		
12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>家族と話し合い意向を確認し、協力医療機関との連携も取りながら事業所で出来ることを検討していく。</p>	<p>「医療連携体制加算に係る手順」を提示し、段階ごとに重度化した場合の対応や看取りに関する指針を定めホームでできる最大のケアについて利用者や家族、医師、関係機関と話し合いながら説明と同意を得て取り組んではいるが、看取りの実績はなく体制がない。</p>	
	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時対応、救急救命についての勉強会を実施している。また、必要に応じて看護師や他職員が駆け付ける体制が出来ている。</p>		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防訓練を年2回実施している。消防署員の立ち会ってもらい、評価や助言を頂いている。</p>	<p>管理者は、地域の協力体制を検討し具体的な方法を推進会議などで地域に呼びかけるなど考えたいとしている。また、備蓄については、母体の医療機関との協力関係もありホームでは管理していない。</p>	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容

7. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>入居者の羞恥心やプライバシーを尊重した支援を行っている。接遇委員会を設置し、勉強会や職員会議で話し合う機会を持っている。</p>	<p>職員は、接遇マナー研修を実施し、特に言葉使いには注意を払っている。不適切な対応がないよう勉強会や職員会議などで話し合うしくみがありプライバシーに配慮したケアに取り組んでいる。</p>	
	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>入居者に合わせて声かけや意思確認を行っている。可能な限り本人による意思決定を尊重しながら支援を行っている。</p>		
	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>極力、行動や時間を制限しないように支援している。本人が好きな時に好きな事が出来るよう配慮している。</p>		
	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している</p>	<p>訪問理容は月1回来てもらっているが行きつけがある人はそちらに行ってもらっている。また買い物外出等で衣類を自分で選んで買う機会を提供している。</p>		
15	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>昼食前は口腔体操を行っており、誤嚥の予防をしている。食事時は職員も同じテーブルに着き、話をしながら楽しい雰囲気作りをしている。</p>	<p>食欲低下がある方や食事介助を必要とする方、居室で食事を摂る方もあるが、職員は利用者自身が食事を楽しむことができるよう工夫や配慮をしている。また、日曜日の朝食、行事食などは利用者と職員が献立を考え能力に応じてお手伝いをいただいたり、お花見、敬老会は弁当を楽しんでいる。</p>	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは病院の管理栄養士に依頼しており、栄養バランスは取れるようになっている。食事量、水分摂取量を毎日記入、その人の状態に合わせて刻みやトロミ剤を使用している。		
	○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的に訪問歯科診療に来てもらっており、治療や指導等を受けている。また、毎食後と就寝前に口腔ケアを行なっている。		
16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各入居者の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレ使用で気持ちよく排泄できるよう支援している。なるべくオムツに頼らない支援が出来るよう話し合い等も行なっている。	本人の排泄のリズムを把握し、食事や運動を取り入れ、内服薬やおむつに頼らずなるべくトイレで排泄ができるよう努めている。布下着の方がおられ、ポータブルトイレを使用される方は夜間だけである。重介護の方は定時でおむつ交換するなど清潔保持し本人が気持ちよく過ごしていただけるよう取り組んでいる。	
	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄のチェックを行い、食事や水分補給、日中の活動等を把握して、極力下剤に頼らない方法を検討している。		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	各入居者の希望に合わせて入浴時間を検討している。更衣や洗体は自力で出来る人は行ってもらい、出来ない部分の支援を行っている。	職員は、利用者が浴槽にゆっくりと入り入浴が楽しめるよう応援体制を取っている。入浴好きな方が多く、なかには家族と温泉旅行を楽しまれる方もおられる。	
	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居前の生活習慣を尊重し、その人のペースで過ごせるよう配慮している。		
	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬のセッティングは管理者が行い、服薬、その後飲ませ忘れや間違いがないか、チェック表を作り確認をしている。服薬後の変化等見られたら、主治医に報告を行っている。		
	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事の手伝い等を手伝ってもらっている。レクリエーションは毎日、他に月1回は行事を行っており、楽しんでもらえるよう努めている。		
18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は近くの公園やドラッグストアに買い物に出かけている。また、季節の行事としてコスモス見学や食事外出に出かけている。	天候や体調に合わせて、近隣の公園や買い物に行ったり、行事計画を立てて計画的な外出支援を実施している。春や秋の花見見物、外食、保育園の運動会へ出かける機会を設け個別に外出を実施したり、家族に協力をいただきながら外出ができるよう支援している。	

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>基本的に職員が管理しているが、行事等で本人の希望があった場合などは使用出来るように支援している。</p>		
	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>家族に話がある場合などはホームの電話を使用し直接家族と話が出来るよう支援している。手紙や郵便物の受け取り、内容の説明等の支援を行なっている。</p>		
19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>季節感を感じられるようにレクリエーション等で季節に応じた飾りやカレンダー作成を行なっている。また、リビングのカーテンを開け、外の光を取り入れて開放的な雰囲気作りを行なっている。</p>	<p>リビングは明るく、円形の窓から通りを行き交う人々の様子が伺え晴れた日には桜島を望める眺望である。対面式キッチンや畳コーナーがありソファが配置され思い思いに過ごすことができ、家庭的な雰囲気である。廊下には、園児の書いた利用者の似顔絵や桜のちぎり絵が掲示されており季節が感じられる。</p>	
	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>入居者同士、部屋に遊びに行ったり、一人で本を読んで過ごされたり、リビングでテレビを見て過ごされたり等、自由に居心地の良い場所で過ごしてもらっている。</p>		

外部評価	項目	自己評価	外部評価	
		実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家で使っていた家具、電気製品、飾り物等を持って来て貰い、出来るだけ家に近い雰囲気ですぐ過ごせるよう配慮している。</p>	<p>家具、写真、テレビなど馴染みの物を持ち込み居心地よく過ごせるよう工夫している。利用者の使い勝手がいいよう検討し居住環境を整えている。</p>	
	<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>入居者一人ひとりの残存能力を見極め、自力で出来ることはなるべく自力で行なってもらうようにしている。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない